

# 吾々は次の世代に 何を残そうとするのか

「沙漠が緑野に変わろうとする今、木々が生い茂り、羊たちが水辺で憩い、果物がたわわに実り、生きとし生けるものが和して暮らせること、これが確たる恵みの証しである。」

——中村 哲 (ペシャワール会報104号・2010年より)

## 明日につながる一年へ——ペシャワール会発足四〇年にあたって

### 2022年度現地事業報告

PMS(ピース・ジャパン・メディカルサービス)総院長・ペシャワール会会長 村上 優まさる / PMS支援室

#### はじめに

一九八三年九月、中村哲医師のパキスタン(後にはアフガニスタンに拡大)での医療活動を支える目的でペシャワール会が発足、一九八四年より現地事業が始まりました。これからの一年は、四〇年の実績を振り返り、今後につなげていくための大切な年と捉えています。

中村医師自身が述べているように、この地での活動はティリチ・ミール登山での出来事が契機となっています。その時のことを中村医師は一九八七年に寄稿した「地の果てから」(西日本新聞)に記しています。この機会に改めて出発点を確認したいと思い、本号にその全文を再掲しました。

また、四〇周年の節目に、中村医師が会報に残した文章をまとめた『中村哲 思索と行動』(上・下)を刊行します。波乱万丈といえば月並みな表現ですが、戦乱や自然の猛威、人々の争いに直面しながら、命をつなぐために格闘した三七年間の貴重な記

録です(上巻は発売中、下巻は来春刊行予定)。不動の信念と、現地の人々に寄り添って事業を進めるしなやかさの両面を、時々刻々同時代ならではの生き生きした文章から読みとっていただきたいと思えます。その精神は、継続して事業を進める私たちの灯火であり、地球規模での自然の危機的状況と人々の争いの渦中で生きていく者にとっての道標みちしるべとなると確信します。

#### 現地事業は順調に進んでいます

二〇二二年度は大きな前進がありました。第一に、日本・ペシャワール会とアフガニスタン・PMSが直接対面し交流することができました。PMS支援室のメンバーや技術アドバイザーが、二〇二二年十二月、二〇二三年三月に現地を視察しました。今後

も引き続き現場を訪れる予定です。タリバン政権になり、イスラム法(シャリア)の規範による伝統的な生活がより強まりましたが、治安は改善し、不正も激減したようです。まだ安心はできませんが、そ

れでも眼前での戦闘や装甲車などは見当たりません。

第二に、中村医師没後に着手したクナール河でのバルカシコート堰と用水路が完成しました。それに続いてコット郡のバラコットで、小河川から水を得る小規模灌漑事業に着手しました。PMS方式の応用編と位置付けられるこの工事は幾多の困難もありましたが、PMSと日本の技術支援チームの協力により、順調に進んでいます。

第三に、医療（ダラエヌール診療所）と農業（ガンベリ農園）運営が安定しました。診療体制の拡大や救荒作物サツマイモの栽培技術の定着などが期待されています。



バルカシコート砂防堤で植樹後の苗木に水やりをする作業員  
(2023年5月22日)

## アフガニスタンの現状

アフガニスタンを取り巻く自然環境の過酷さは予断を許しません。干ばつは厳しさを増す一方です。ナンガラハル州で見られる、昨年十二月までは高山の積雪が極端に少なく、年が明けて逆に季節外れの大雪がありました。春の雪はその後の急激な雪解けを起し、局地的なゲリラ豪雨は渓谷などの土石流被害をもたらす洪水となります。アフガニスタン全体の気象データは得られませんが、これまでとは異なる時期の大雨や洪水、干ばつを引き起こしています。

一昨年の政変後の欧米をはじめとする経済制裁は続いており、アフガニスタン全体の経済状態は悪化し、失業や貧困などの社会不安は高まる一方で、飢餓が心配されま

す。タリバン政権側と、女性の就労や教育を巡る国際機関や世論との対立は激しくなることはあれ、改善の糸口は見出せません。

アフガニスタンのことはアフガニスタンの人々が決めるといふ前提が必要だと中村医師は考えていました。今、困難や課題は山積していますが、まずは人々が何を成そうとしているのか、そして何に困っているのかを知ることが肝要でしょう。そこに私たちの協力する道が用意されているはず

です。PMSとペシャワール会は、人々の命を支えることを行動

の基準として事業を進めてきました。多くの会員・支援者の会費・寄付により、中村医師の事業と希望を維持できていることに感謝し、事業報告をいたします。

## 二〇二二年度の概要

### 1. 医療事業

昨年八月にアフガンのほぼ全土で降雨がみられ、豪雨となったPMSの診療所周辺地域では井戸水の汚染が発生し水溶性下痢を訴える患者が急増した。猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症は、二一年八月の政変後も継続されたワクチン接種の効果があつたのか、患者が激減した。しかし、国際的な経済制裁により全国的に医療施設は機能せず、PMS診療所への来院数が増え対応に追われている。

二〇二二年度の診療内容は表1の通り。

表1 2022年度 診療数及び検査件数

国名	アフガニスタン
地域名	ナンガラハル州
施設名	ダラエヌール診療所
外来患者総数	51,180
【内訳】 一般	43,801
ハンセン病	0
てんかん	640
結核	104
マラリア	3,477
外傷治療総数	3,158
入院患者総数	—
検査総数	9,423
【内訳】血液一般	1,485
尿便	1,484
1,962	
ハンセン病塗抹検査	0
抗酸性桿菌	102
マラリア	3,459
リーシュマニア	468
その他	463



## 2. 灌漑事業

二〇二二年度の主な工事は以下の通り。

### (1) バルカシコート堰

①主幹用水路三〇〇m—ソイルセメントライニング、両壁に蛇籠工と柳枝工を施工

②沈砂池—既存用水路への送水門とクナール河への排水・排砂用スライド門を併設

③洪水通過橋—近傍の山谷からの鉄砲水をクナール河へ流すため、用水路上を交差

④護岸工事—総護岸線八〇〇mは交通路でもあるため十分な幅を取り、締め固めをしながら完工

⑤透過性の砂防堤建設—堰近傍の溪谷に十一カ所の砂防堤を完成。計二五カ所に空石積み及び蛇籠を設置し、最下流部には連続する三カ所の貯水池造設

八月末の豪雨で砂防堤数カ所の修復を要したが、鉄砲水による下流の村々や用水路への被害を防御した。

また、下流の村では例年冬季は飲料用井戸が涸れていたが、砂防堤設置により今冬は井戸の水位低下が見られなかった。鉄砲水の緩流化により地下への浸透水増加が考えられる。

二〇二〇年十二月に始まった本工事は、予定通り二〇二二年九月に完工した。昨年

八月の大洪水では取水門前の水位が二一〇cm超になった。取水門が無ければこの水量が村に流入したであろうことを考えると、十分に防災の役目を果たしている。また、堰の巨石等に大きな乱れは見られず改修工事を必要としなかった。

### (2) バラコット堰・用水路

新規事業として小河川からの取水と湧水からの導水を合流させる、小規模灌漑施設として二〇二二年十月着工。主な工事は次の通り。

工期…一年(二〇二三年九月完工)

取水堰…幅三〇m、長さ一二〇m

取水門…幅二m、一門

用水路…幅一・五m、長さ四三〇〇m

貯水池…二カ所

護岸堤…計二km。取水口の上下流それぞれ五〇〇m、対岸にも同じ長さ

の護岸堤建設

二月に用水路、交通路予定地の斜面及び地山の切土工事を終え、用水路掘削を開始。

### (3) マルワリード堰・用水路改修計画

本事業は二〇一九年十二月から四年間の工期だったが一年延長された。

二二年度は、用水路H、I区の床面三kmのソイルセメントによるライニング工事を終え、残すところ約三kmとなった。

### (4) 維持・管理(保全)事業

昨年八月の大洪水により、以下の改修工

事を行なった。

I マルワリード用水路H区—近辺の谷からの鉄砲水で用水路壁に被害があった。

II 透過性のある蛇籠を工夫し修復

III 護岸線の改修工事—ベスード、カシコ

ート、マルワリード、ミラーン、マルワリードII

IV 堰の改修工事—シェイワ堰下流端に巨

石の補強、砂州接続部補修

他の堰・用水路では次の作業が低水位期に行われた。

I 上下流の土砂除去や河道整備—マルワ

リードII堰、ミラーン堰、シギ堰、カ

シマバード堰

II 用水路の浚渫作業—マルワリード用水路(H・S・T区、シギ分水路)、カマ

水路

シギ用水路の沈砂池やカシマバード用水路の浚渫は地元住民が自主的に行なっている。

## 3. 農業事業 ガンベリ農場

二二年度は、救荒作物のサツマイモの栽培を再度試した。日本とは気候が違うので時期を変えて複数回植え付けを試みている。焼き芋が一般家庭で好まれたため、ツルを持ち帰る作業員たちによって普及が始まった。

例年通り小麦、米、サトウキビ、柑橘類の収穫が行われた。米約三二トン(三・六トン/ha)、小麦は約六〇トン(一・五トン/ha)。畜産では日々のミルクの生産量が増え一

表2 植樹本数(2003年3月から2022年12月まで)

種類	場所	2003~07年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計
ヤナギ	用水路の両側、河川工事	116,050	55,380	97,380	60,750	73,315	23,650	37,073	18,400	39,650	14,700	30,250	51,750	61,780	118,440	27,200	7,300	833,068
クワ	用水路土手	7,000	2,750	8,578	4,430	140	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23,190
オリーブ	用水路土手、柵ノ圍	2,000	0	840	0	0	0	1,424	1,275	240	136	0	5	0	0	0	195	6,115
ユーカリ	砂防林、護岸樹林帯	2,500	1,000	11,478	39,584	22,350	28,196	7,150	7,500	2,611	500	4,659	2,010	2,610	9,105	5,250	11,562	158,065
ピエラ	ガンバリ沙漠	0	300	600	1,165	165	2,083	175	75	0	0	0	0	0	0	0	0	4,563
ガズ	砂防林、護岸樹林帯	0	15,100	71,300	14,356	9,887	22,317	3,573	780	265	0	0	0	2,000	0	0	0	139,578
シヤム	護岸線樹林帯	0	0	0	0	0	0	4,614	1,400	2,000	6,270	516	660	2,350	6,000	2,210	50	26,070
ポプラ	ガンバリ沙漠	0	0	0	4,900	10,786	1,850	0	220	0	0	0	0	0	0	0	0	17,756
トスギ	モスク、学校、公園	0	0	0	60	195	300	0	0	0	110	0	200	130	193	0	0	1,188
果樹	ガンバリ果樹園	600	0	0	193	0	6,034	5,283	9,185	1,458	1,822	4,348	4,884	509	405	7,678	3,346	45,745
その他		0	0	0	132	190	412	144	50	26	0	1,096	597	337	128	204	759	4,075
		128,150	74,530	190,176	125,570	117,028	85,134	59,436	38,885	46,250	23,538	40,869	60,106	69,716	134,271	42,542	23,212	1,259,413

日一〇〇キロ。  
養蜂も継続中ではあるが改善点が山積している。

二一年夏にPMSの職員となった農業学校卒の五名は育苗場や畜産、広大な圃場を分担して担当している。彼らは昨年十一月の麦の播種で、バラ蒔き、トラクター使用、手動の簡易な播種用機械を使用して栽培を試みている。

#### ◎植樹

二〇二二年一月から十二月までの植樹数は二万三二二二本。二〇〇三年以来の総植樹数は一二五万九四一三本となった。植樹の内訳は表2の通り。

#### 4. 現地との交流・その他

現地の実情を知るうえでPMS職員との交流は重要である。二二年度は前年度に引き続き、毎月のオンライン会議を継続しコミュニケーションを図ってきた。

二一年の政変後は一時的に治安が不安定であったが、PMS活動地の状況が安定してきたため、昨年十二月と今年三月にPMS支援室メンバーなどが現地を訪れた。技術支援チームメンバーが現場で灌漑事業の指導をした。

#### 二〇二三年度の計画

二〇二二年度の継続である。

① バラコット事業では、取水堰・用水路、貯水池、横断排水路、堤防・護岸工事

の完成。

② マルワリード取水門の間口の増設と、これに接続する用水路五〇mの拡幅、取水堰改修―コンクリート製土砂吐き(可動堰)の建設、巨礫による固定堰の調整、用水路床面のライニング3km  
③ 維持・管理(保全)計画は、流域住民への技術伝達の一環として継続され、住民による維持・管理を目指す。

④ PMS灌漑方式の普及計画として、FAO(国連食糧農業機関)―PMSの共同事業が開始される予定。

#### おわりに

私たちがアフガニスタンで出会う人々は笑顔に溢れ、感謝の気持ちを素朴な私たちで表します。そうした人々のために、これからも変わらずに事業を継続してまいります。不動であること、不易であることは中村医師の真髄で、これを実行するPMSを誇りに思います。

そして、中村医師の事業継続を支持してくださる皆様の期待に添うべく、今後も一層努力していく所存です。

ペシャワール会事務局は老若男女を問わず、多様なボランティアによって維持されており、発足当時からの方も、新しく参加される方もいます。

こうした人々の働きによってペシャワール会は四〇周年を迎えることができました。深く感謝いたします。